

◆ 今週のコメント

- ・ コレラの本年初めての報告があります。推定感染経路は経口感染、推定感染地域は国外(インド)です。本市では、感染症法に基づく届出の対象となった平成11年4月以降、平成12年の3例、平成15年の1例に次いで5例目の報告です。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の追加報告が7例です。本年の累積報告数は81例で、この時期までの年当たり累積報告数としては、感染症法に基づく届出の対象となった平成11年(4月)以降、最も多くなっています。
- ・ 新型インフルエンザによる全国の入院患者数は、10月14日～10月20日の間に445人、そのうち基礎疾患を有する者等が162人、急性脳症・人工呼吸器使用患者数は34人です。京都市では、5月21日の市内第1例目の発生以降の新型インフルエンザによる入院患者数は47人で、10月21日現在入院中の方は7人です。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は13.01(885例)で、注意報発令の基準値である10を超えています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:コレラ 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 7例(第33週2例, 第40週2例, 第41週3例)【1月以降の累積報告数 81例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	13.01	885
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.02	83
	② 水痘	0.41	17
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.27	11
	④ 手足口病	0.22	9
	④ ヘルパンギーナ	0.22	9
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽喉ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルスB1型(1)	無菌性髄膜炎(第27週)	FC, NP, SF	A群溶血性レンサ球菌(1)	ヘルパンギーナ(第33週)	NP
ポリオウイルス2型(1)	感染性胃腸炎(第24週)	FC	B群溶血性レンサ球菌(1)	ヘルパンギーナ(第33週)	NP
黄色ブドウ球菌(2)	無菌性髄膜炎(第27週), かぜ症候群(第33週)	FC, NP NP	G群溶血性レンサ球菌(1)	かぜ症候群(第33週)	NP
肺炎球菌(5)	かぜ症候群 (第31週×2, 第32週, 第33週×2)	NP×5	インフルエンザ菌 b型以外(3)	下気道炎(第32週), かぜ症候群(第33週), ヘルパンギーナ(第33週)	NP×3

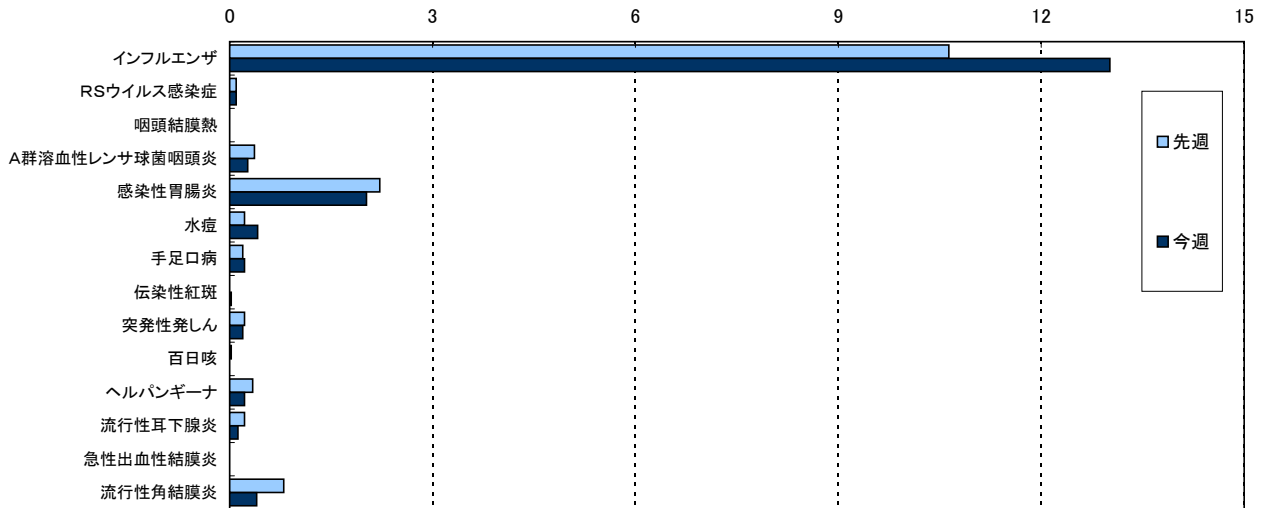
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

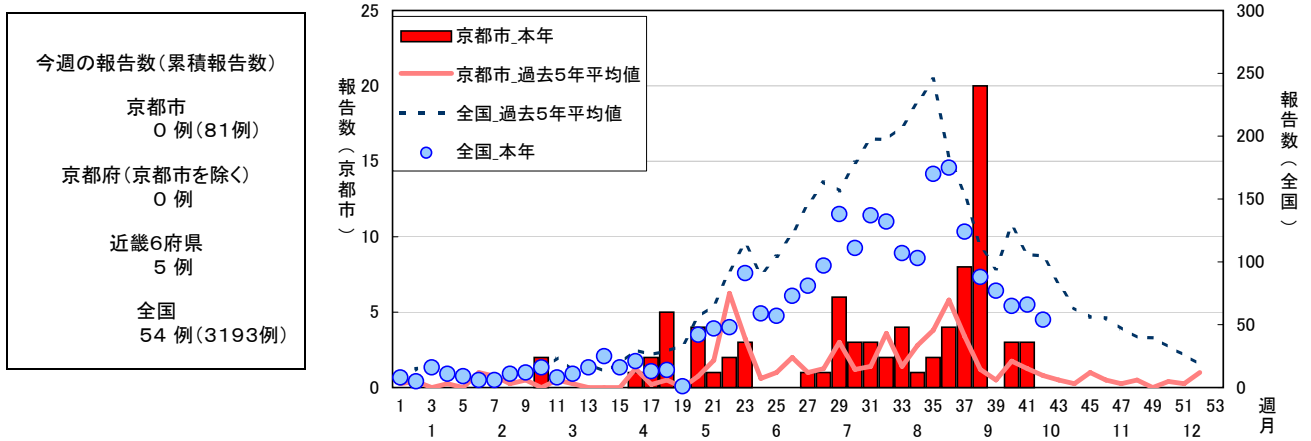
(注)京都市のデータは、平成21年10月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第42週)と先週(第41週)の定点当たり報告数の比較



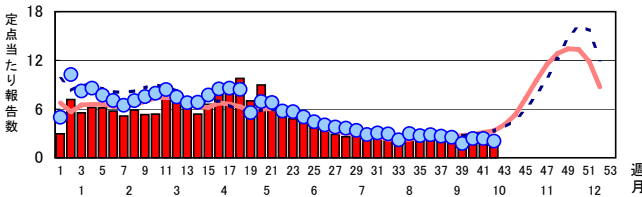
2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



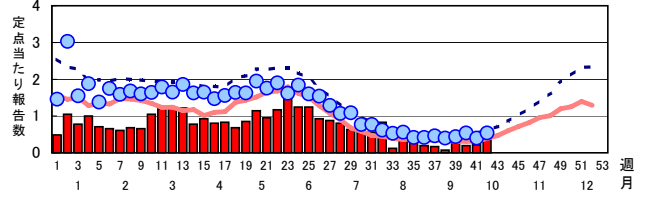
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

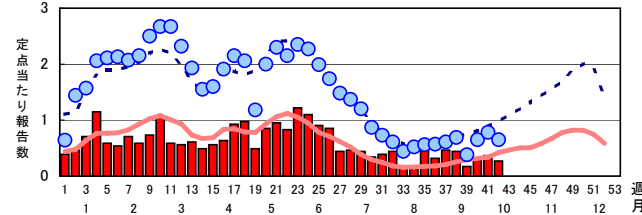
1 感染性胃腸炎



2 水痘

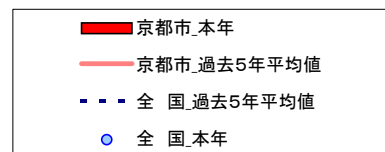
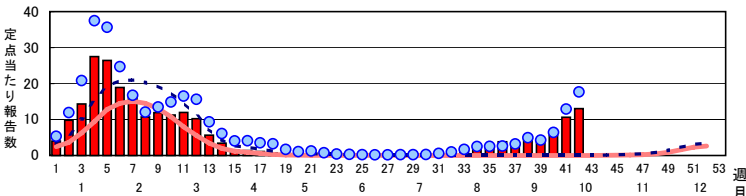


3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



<インフルエンザ定点>

インフルエンザ



第42週(10月12日～10月18日)トピックス: <インフルエンザ>

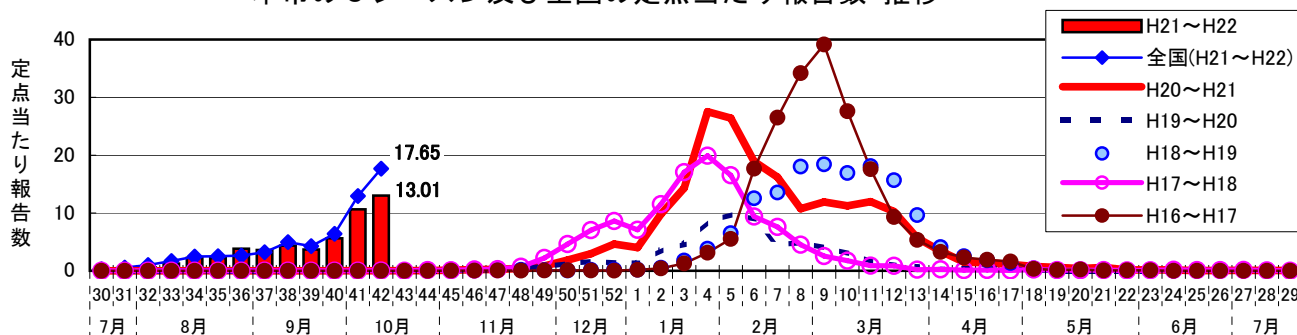
インフルエンザの定点当たり報告数は13.01(885例)で、注意報発令の基準値である10を超えています。また、全国の定点当たり報告数は17.65で、注意報の基準値を超えている都道府県は、第41週は12都道府県、第42週は25都道府県となっています。

年齢群別構成割合では、依然として「10～14歳」の患者が最も多くなっています。また、10歳未満の割合が増加しています。

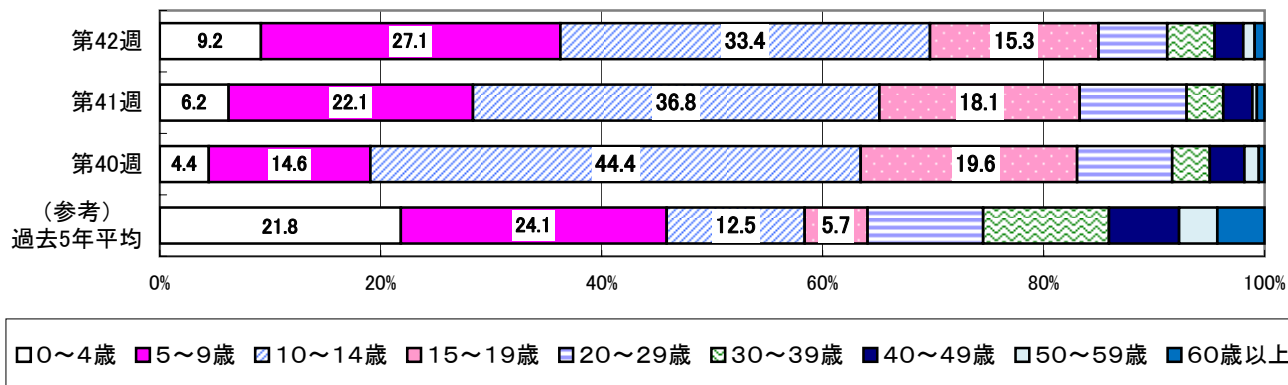
行政区別定点当たり報告数をみると、5行政区で注意報の基準値を超えており、東山区では警報の基準値(30)に近い値となっています。

なお、第42週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した30例のうち、7例は陰性、23例はA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてが新型インフルエンザウイルス(A/H1N1)[AH1pdm]です。

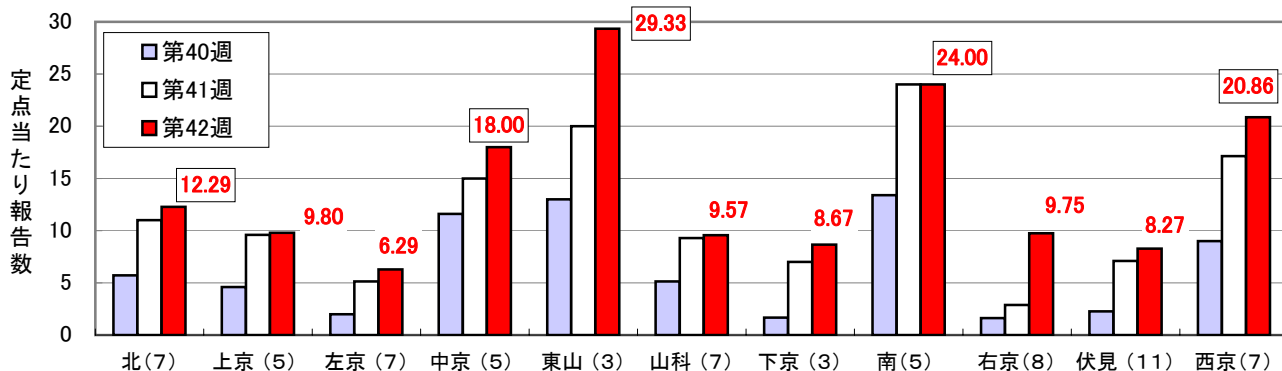
本市の6シーズン及び全国の定点当たり報告数 推移



年齢群別患者構成割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



(注) 定点にどのような医療機関が含まれているかによって、左京、伏見などでは例年、定点当たり報告数が低くなる傾向があります。